



# くば小児科 クリニック

院内報 2008年2月・3月号

## ● 院内版感染症情報 ～2008年10週 (3/3～3/9)

2007-2008年	第46	47	48	49	50	51	52	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10週
インフルエンザ	0	0	0	0	7	30	13	3	3	2	8	3	3	1	3	1	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
感染性胃腸炎	5	6	12	15	12	17	8	3	4	8	3	8	12	8	9	9	5
水痘	1	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0	0	1	0	1	1
手足口病	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	1	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今シーズンは異例の早さでインフルエンザの流行が始まり、11月下旬には弘前市周辺で、12月に入ると八戸市内でも流行が始まり、3週目までに市内全域に拡がりました。幸い、冬休みで頭打ちになりましたが、3学期でぶり返す可能性や複数の型の混合流行もあり得るため、春先まで流行状況の推移には注意が必要です。今年の流行はAソ連型で、A香港型よりも重症化する割合は低いようですが、乳幼児の脳症などの合併症に注意して対処する必要があります。

同時に、例年と同様にウイルス性胃腸炎（ノロ／ロタウイルス）の流行がみられています。乳幼児で咳が急激に悪化して「急性細気管支炎」に進行するRSウイルスも秋から流行が続いています。水痘や溶連菌感染症も例年この時期に増加します。麻疹（はしか）は今年も全国で流行がみられ、県内でも発生し

ています。例年初夏にかけて増加するので、流行の拡大が懸念されています。

### <ワンポイントー吐いたときの家庭でのケア>

ウイルス性胃腸炎の場合、吐き気のある最初の一晩を過ごすことができれば、あとは下痢だけで治っていく場合が大半です。このときに、無理に飲ませて吐くことを繰り返すと、かえって脱水が進み重症化してしまいますので、できるだけ水分もとらせずに待って、それから少量頻回の水分補給をしていくことが最大のポイントです。水分再開のサインは、便が出てくることです。下痢してきたのは「悪化した」のではなく「お腹の動きが良くなってきた」ことを示しているのです。ポカリスエットは下痢を悪化させ長引かせます。

## ● 小児のメタボリックシンドローム

子どもの肥満は将来のメタボリックシンドローム（以下MS）と早期死亡に繋がるだけでなく、小児期から既にMSを発症している子もいます。かつて小児成人病と呼ばれていましたが、小児のMSの診断基準が定められたので紹介しておきます。ポイントは「腹囲80cmまたは腹囲/身長比0.5以上」です。

### ◎ 小児メタボリックシンドローム診断基準（6～15歳）

#### ・内蔵脂肪（腹腔内脂肪）蓄積

腹囲 中学生：80cm以上 小学生：75cm以上

または腹囲/身長比 0.5以上（身長140cmの子なら腹囲70cm以上）

#### ・上記に加え以下のうち2項目以上

1) 中性脂肪 $\geq 120\text{mg/dL}$  かつ/または HDLコレステロール $< 40\text{mg/dL}$

2) 収縮期血圧 $\geq 125\text{mmHg}$  かつ/または 拡張期血圧 $\geq 70\text{mmHg}$

3) 空腹時血糖 $\geq 100\text{mg/dL}$

成人のMS基準「腹囲 男性：85cm・女性：90cm以上、中性脂肪 $\geq 150\text{mg/dL}$ 、収縮期血圧 $\geq 130\text{mmHg}$ 、拡張期血圧 $\geq 85\text{mmHg}$ 、空腹時血糖 $\geq 110\text{mg/dL}$ 」に比べて厳しい値になっていますが、小児の90%または95%がこの値以下であることや、世界的な動向なども参考にして定められました。

厚労省の研究班では、肥満度20%以上の肥満児の5～20%、一般の子どもの数%が小児MSにあてはまるものと推定しています。ただし、小児のMSは成人MSと違い、成人の心血管系疾患発症リスクについてのエビデンスは蓄積されておらず、今後修正が加えられる可能性があります。

まずは腹囲をチェックしてみませんか。（おへソの高さで水平に測ります）

## ● 入園・入学・進学前に予防接種を済ませておきましょう

春は節目の季節。入園・入学までに必要な予防接種が終わっているかチェックして、まだのものがあれば済ませておくようにしましょう。

去年は春先から首都圏を中心に麻疹が流行し、八戸でも高校が休校になるなどの影響が出ました。この事態に、麻疹対策後進国のわが国も、ようやく「2012年までに麻疹制圧」という目標に向けて対策に本腰を入れることになり、4月から、中1と高3に麻疹・風疹（MR）混合ワクチンの接種がはじまります。医療機関における個別接種ですので、予診票が配布されたらすぐに受けるようにしましょう。

現在高3の方はこの接種からもれてしまいます。去年の流行は、未接種者だけでなく1回だけ接種した人も感染したために拡大しました。これまで麻疹に罹ったことが確実な方を除いて、全ての若者に2回目の接種をお勧めします。

また、保育園・幼稚園では水痘（みずぼうそう）と流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の流行が繰り返されています。定期接種に加えて、この2つを接種しておくようにしましょう。特におたふくかぜは難聴の後遺症を比較的高率に残すことがわかってきたので、ワクチンで防いであげたい感染症と言えます。

<予防接種の目標年齢>

0歳：BCG（5か月）、三種混合（DPT）1期（3回）、ポリオ1～2回  
1歳：麻疹・風疹（MR）混合1期、DPT1期追加（1回）、ポリオ2回目  
水痘、おたふくかぜ

5～6歳：MR混合2期（入学前の1年間）

小6：二種混合（DT） / 全ての年齢：インフルエンザ（秋に2回）

中1・高3：MR混合3期・4期（5年間限定）

（日本脳炎は現在休止していますが希望者には接種することができます）

## ● 3月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

3月も臨時休診はありません。急病診療所当番は3月1日(土)と22日(土)、赤ちゃん教室は3月15日(土)です。育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険診療）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

発行 2008年3月11日 通巻第132号 ☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆  
編集・発行責任者 久芳 康朗 〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26  
TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197 <http://www.kuba.gr.jp/>